

平成31年度(令和元年度) 学校評価実施報告書

学校名(京都市立 大枝中学校)

教育目標

夢を実現するための「確かな学力」
 社会の一員としての「豊かな人間性」
 よりよい地域・社会を創造する「つながる力」を育成する。

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習を促すため、「ペア学習」「グループ学習」を取り入れた授業の取組を進めてきた。話し合い活動を効果的に取り入れることで、本校が目指す資質・能力である「つながる力」の育成にも効果が出始めている。また、全学年とも学習確認プログラム等において平均を超える結果を残しており、学力面でも一定の成果を残している。 ・大枝中学校区ブロック共通の「学びのガイドライン」をもとに、授業改善の取組を進めている。「めあて」の明示はほぼ出来ているが、「振り返り」にはその方法や内容にまだ課題があり、次年度はさらに「授業の流れ」の明示を加えて、授業改善を図りたい。 ・各種アンケートの結果分析から「家庭における学習習慣」の定着が依然として課題であることが分かる。また、毎日朝読書を行っているにもかかわらず「読書の習慣」のポイントが低いことも課題である。学習内容の設定や点検方法などの取組を工夫し、意識の改善を図りたい。 ・次年度も、小中で検討した「子どもたちにつけたい資質・能力」として「つながる力」の育成を主となる課題として9年間を見通した取組を進めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会での意見を取り入れて、学校評価の項目を変更していただけた。 学校評価がより良い形で、学校改善につながることを願っている。 学校評価により、どれだけ正確に自己分析できているかが大切である。是非とも、学校の特色、独自性を出す取組を進めて行って欲しい。 「子どもたちをどのような良い姿にしていくか」を視点に、学校経営を進めていって欲しい。協力できることはしたいと考えている。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年11月1日	学校運営協議会
最終評価	令和2年2月28日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

カリキュラム・マネジメントの視点の下、確かな学力をつけるため授業改善を図る。
 自分の夢の実現に向けて、家庭での自学自習が習慣化できる取組を実践する。

具体的な取組

- ①全国学力・学習状況調査や学習確認プログラム、生徒アンケート等の調査結果から、経年変化や推移等を分析する。年間4回程度の学力分析研修会を実施し、本校の課題を明確にするとともに解決に向けた授業改善を図る。
- ②年間4回の公開授業研修会を通して、継続的に教員の授業改善に努め、学力向上に効果的な「授業づくり」を行う。(全教員が授業を公開し、教科別・学年別・年代混合等形態を変えて研究協議をする。)
- ③生徒の主体的な学習を促すため、ペアワークや4人班での少人数グループによる授業スタイルを実践し、全校体制での研究を行う。
- ④「未来スタディサポート教室」を、原則全学年で毎週実施。学習に躊躇のある生徒に対して継続的に支援をおこない、学習内容の定着と向上を図る。
- ⑤定期テスト前や長期休業期間において、補充的な課外学習の時間(学習相談)を設定する。
- ⑥生徒の通学時の負担軽減に向けて、「学校に置いて良いもの」を選定すると同時に、家庭学習に向けて必ず持ち帰らせるものやノートづくりの指導、家庭学習についての指導を充実させ、習慣化できる取組を行う。
- ⑦英語・数学・漢字検定などの検定講座に向けて、土曜学習を実施する。
- ⑧年度当初より全校一斉に「朝読書」に取り組む。
(読書習慣を身に付けさせるとともに、目的に応じて的確に読み取るなどの読解力を向上させる。)
- ⑨各教科で工夫しながら、学校図書館を活用した授業を充実させる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ①学校評価アンケート項目 (生徒)

「教科の授業がよく分かる」「家庭学習の習慣が身についている」「すすんで学習に取り組んでいる」

- ②学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査での経年変化やアンケート内容の分析

○学習確認プログラムの経年変化

○全国学力・学習状況調査のアンケートの分析

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「1日当たりの勉強時間は」

- ③運営委員会を中心とする各部会(主に研究部)での報告と分析

- ④生徒の話す、聞く態度の変容を観察

中間評価

各種指標結果

- ①学校評価アンケート項目

・「教科の授業がよく分かる」；全教科平均 86.3P(前年度同時期 81.6P)

・「家庭学習の習慣が身についている」；71.9P(前年度同時期 64.4P)

・「すすんで学習に取り組んでいる」；82.2P(前年度同時期 77.1P)

- ②学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査での経年変化やアンケート内容の分析

○学習確認プログラムの経年変化(1年ジョイントから)

3年生は、0→-1→+4→±0→-1→+1→+1 と推移

2年生は、0→-4→+4→-1 と推移

○全国学力・学習状況調査の経年変化及びアンケートの分析

・国語、数学、英語すべての教科で、正答率が全国・京都府平均を上回った。ただし、その差はわずかで1～3ポイント程度となっている。

- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」；(1&2) 51.0 P (京都 46.4 P, 全国 50.4 P)
- ・「1日当たりの勉強時間」；(1&2=2 時間以上) 55.6 P (京都 31.0 P, 全国 35.5 P)
；(5&6=30 分以下) 13.3 P (京都 19.2 P, 全国 12.8 P)

自己評価

分析（成果と課題）

①学校評価アンケートより

- ・「教科の授業がよくわかる」について、前年度より 5 P 近く上昇し、平均で 85 P を超えた。概ね高い理解度を示していると考えられる。ただし、学年や教科によってばらつきが大きく、低い教科や学年があったり、学年が上がるにつれて「よくわかる」が大きく減少したりするなど、一つ一つ丁寧な分析が必要で、今後とも継続して取組を進めていきたい。
- ・「家庭学習の習慣」については、7 P 上昇して 70 P を超えてきた。「すすんで学習に取り組めている」も 5 P 上昇し 80 P に達している。1・3 年生は高い数値を保っているのに対し、2 年生が極端に減少する傾向にあり、中だるみと言われる兆候はここにも現れている。

②確プロと学調の分析より

○確プロの経年変化を見ていくと、常に平均は上回っており、少しずつではあるが上昇傾向が読み取れる。ただし、領域別の正答率にばらつきが大きく、得手不得手の差が激しい傾向にあり、単に覚えるのではなく理解して活用する力を伸ばしていく必要があると考える。

○学調については、国語、数学、英語ともに全国平均および京都府平均を上回っているが、その差は殆どなく、領域別の分析で苦手とする分野も多いことが見えてきた。「少人数グループ」の取組については一定の成果が現れているので、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてさらに取組を進めていきたい。また、アンケートから 1 日の勉強時間や自学自習について、2 時間以上取り組んでいる生徒の割合は全国平均、京都府平均を大きく上回っているが、30 分未満の生徒の割合もまだまだ多く、習慣化にはなお時間を要すると思われる。さらに、その内容や計画性など積極的な学習についてのきめ細かな指導が必要であり、今後の学習について重要なポイントになると思われる。

③運営委員会を中心とする各部会（主に研究部）での報告と分析

- ・学習面・生活面共に一般的な中学生としてほぼ良好な様子である。
- ・家で計画的に勉強をしている生徒は増えているが、宿題の範囲にとどまっており予習や復習までしている生徒はそう多くはない。
- ・自分で考え、自分から取り組むこと、自分の考えがうまく伝わるようにいろいろな工夫することなど「自主性」と「つながり力」を育てることが課題の一つである。

④生徒の話す、聞く態度の変容を観察

- ・年度当初に比べて、各学年とも落ち着きがなくなっている。学習に向かう態度や心構えについて再度徹底すると共に、自ら進んで取り組む姿勢をつけるべく、指導を続けていく。特に 2 年生に中だるみ傾向が見られるので、学校体制で取り組んでいきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・授業を通して自ら学びに向かう力を育み、身に付けさせるための取組として、授業改善の視点から、本校が継続して取り組んできた「少人数グループ」での学習活動をさらに推進する。
- ①「本時の目当て」「授業の振り返り」の徹底を全教科で実践する。
- ②少人数グループでのより積極的な「教え合い」活動の取組と指導方法を研究する。
- ③全国学力学習状況調査や学習確認プログラム等の結果をさらに詳細に分析し、本校生徒の課題を明確にして全教職員が共有する。

	<p>④「未来スタディサポート教室」や学習相談、土曜講座を積極的に実施すると共に、「朝読書」の全校での取組の継続や学校図書館を活用した授業を充実させる。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート項目（「教科の授業がよく分かるか」・「家庭学習の時間は」等） ・学習確認プログラムでの経年変化や内容の分析 ・運営委員会を中心とする各部会（主に研究部）での報告と分析 ・生徒の観察（話す、聞く態度等の変容）
--	--

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・生徒アンケートより「教科の授業がよくわかる」のポイントが上昇しているなど全体的に好意的に捉えられているようで評価できるのではないか。
- ・読書週間の定着に向けては、朝読書以外にも、全学年国語科でのビブリオ・バトルの実施や、文化祭における全校発表、3年生での保育教材としての「絵本」の作成などいろいろな取組がなされていることがわかった。このような取組を通してさらに生徒の関心を伸ばして欲しい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

①学校評価アンケート項目

- ・「教科の授業がよく分かる」；全教科平均 86.0P（前年度同時期 82.7P） 前期比 -0.3P
- ・「家庭学習の習慣が身についている」；67.9P（前年度同時期 67.3P） 前期比 -4.0P
- ・「すすんで学習に取り組んでいる」；80.5P（前年度同時期 77.5P） 前期比 -1.7P

②学習確認プログラムでの経年変化や内容の分析（1年ジョイントから）

- ・3年生は、0→-1→+4→±0→-1→+1→+1→±0 と推移
- ・2年生は、0→-4→+4→-1→+2→-4 と推移
- ・1年生は、0→+4→-1 と推移

③運営委員会を中心とする各部会（主に研究部）での報告と分析及び生徒の観察

- ・学習面・生活面共に、ほぼ良好な様子である。
- ・家で計画的に勉強をしている生徒は増えているが、宿題の範囲にとどまっており、自ら課題を設定し、前向きに取り組むには至っていない。
- ・自分で考え、自分から取り組むこと、自分の考えをうまく伝えることが出来るような取組を工夫し、「自主性」や「つながる力」を育てることが課題である。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

①学校評価アンケートより

- ・教科の授業の理解度については、前年度同時期より 3.3P 上昇したが、前期からはほぼ横ばい状態である。個別にみると、学年や教科によってばらつきがあり、社会、美術、保健で上昇した反面、数学、理科、英語では下降傾向が見られた。学年の後半となり、授業内容も徐々に難しくなっており、つまずきを抱える生徒に対して一つ一つ丁寧な指導が必要と思われる。また、家庭学習の習慣については前期から大きく減少しており、学校や塾などの宿題で手いっぱいになっている様子が見られる。すすんで学習に取り組めているも前期よりは下降傾向にあるが、前年同時期よりは 3P 上昇しており、自学自習の習慣化を目指した取組が少しづつ効果を上げていると考える。

②学習確認プログラムの分析より

・3年生については、入学直後より4P上昇した。決して高いレベルとは言えないが、安定感があり、コンスタントに力を発揮できるようになったと考える。2年生については、徐々に上昇しており、今後の取組でさらに伸びていく可能性を感じる。1年生も同様で、つまずきを持つ生徒を含め、より丁寧な指導が必要と考える。すべての学年で平均は上回っているものの、領域毎の正答率にばらつきが大きく、得手不得手の差が激しい傾向にあり、単に覚えるのではなく、活用し、発展させる力をつけていく必要があると考える。

③各部会における分析及び生徒の観察より

・確かな学力の定着や家庭学習の習慣化に向けての取組は、徐々にではあるが成果として現れできている。今後、自ら課題を設定する力や自分の考えや意見を人に伝えたり、人の考えや意見をしっかり聞き取れたりできる力「つながる力」をつけていく取組を推進していきたい。

④重点目標の達成状況、次年度の課題

・授業改善については、「めあて」の明示については、概ねできているが、「振り返り」については、今後もさらなる取組を進めていく必要がある。次年度は、加えて「授業の流れ」の明示に取り組み、ユニバーサル・デザインを意識した、誰もが分かりやすい授業の展開に向けて取り組んでいくことを課題としたい。

・家庭学習の習慣化については、まだまだ多くの課題がある。ある程度の宿題については、必要と考えられる一方、塾等での宿題の量とのバランスをとることには困難がある。ほとんどの生徒ができない現状を受け止めながら、宿題として与えられた課題ではなく、個人の自主的な学習を家庭学習と位置付けていくことを目指したい。

分析を踏まえた取組の改善

①年3回学力分析研修会を実施した。全国学力・学習状況調査や学習確認プログラム、生徒アンケート等の調査結果をもとに、本校生徒の課題を明確にし、授業改善を行っている。そのために、教科や学年によってばらつきのある教科会を定例化し、推進を図りたい。

②年間4回公開授業研修会を実施した。継続的に教員の授業改善に努め、学力向上に効果的な「授業づくり」を行ってきた。次年度も継続して実施していく。

③生徒の主体的な学習を促すため、「ペア学習」「グループ学習」を取り入れた授業に取り組んできた。話し合い活動などにもその効果が徐々に始めている。さらにスタイルや発問・発表の形態などを全校体制で研究・実践していきたい。

④「未来スタディサポート教室」を、原則全学年で毎週実施できた。学習につまずきのある生徒に対して継続的な支援を行ってきた。学習内容の定着についても、今後の取組を通して向上を目指したい。ボランティアの確保に大きな課題を感じている。

⑤学校図書館を活用した授業の充実について、まだまだ充分に活用できていない。次年度も継続して取組を進めたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

・気軽に相談できる先生がいるの項目が大きく上がっていることに安心を感じる。特に2・3年生と学年が進むにつれて大きく上昇していることが喜ばしい。

・読書や家庭学習の習慣の項目が以前60%台と上昇傾向にないのが気になる。学校では言われることはやるが、家に帰ると自動的に取り組めていない現状が表れている。より具体的な働きかけが必要ではないか。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

人権尊重の精神を基盤に据え、生徒の「豊かな人間性」の育成を図る。

具体的な取組

- ①生徒会活動を中心とした「朝の挨拶運動」や「生活点検活動」など、生徒が主体となる活動を活性化させることで、互いが「つながる」ことの大切さを知り、高め合う集団づくりを推進する。
- ②学校行事や学級での活動を軸に、不調生徒に対する全教職員の共通理解を図り、関係機関や外部支援団体との連携も視野に入れながら、一人一人を徹底的に大切にする取組を継続的に進める。
- ③道徳主任・道徳推進教師を中心として指導内容を系統的に整理し、年間を見通した教科書の題材の配置や他教科との横断的連携などをさらに進め、具体的な評価実践を行い、本校における道徳教育のスタイルを作り上げる。
- ④職場体験学習、ボランティア活動、部活動などの体験的な活動を通して、良好な人間関係を築ける力他者と「つながる力」を身に付けさせる。

(取組結果を検証する) 各種指標

①学校評価アンケート項目（生徒・保護者）

「いじめを許さない仲間づくりができている」「自分を大切にしている」「人を大切にしている」「仲間の良いところを見つけようとしている」「学校の約束事や決まりを守っている」

②学習確認プログラムや全国学力学習状況調査のアンケート結果

「学校の規則を守っていますか」「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」「清掃活動や係活動をきちんとしていますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」

③運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）での報告と分析

④生徒の学校生活における態度や言動を観察

中間評価

各種指標結果

①学校評価アンケート項目

- ・「いじめを許さない仲間づくりができている」 94.6 P (前年度同時期 94.8 P)
- ・「自分を大切にしている」; 90.5 P (前年度同時期 87.1 P)
- ・「人を大切にしている」; 96.4 P (前年度同時期 96.7 P)
- ・「仲間の良いところを見つけようとしている」; 92.7 P (前年度同時期 89.3 P)
- ・「学校の約束事や決まりを守っている」 98.2 P (前年度同時期 95.2 P)

②全国学力学習状況調査でのアンケート結果

- ・「自分にはよいところがあると思いますか」; (1&2) 80.4 P (京都 71.4 P, 全国 74.1 P) +5.2 P
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」; (1&2) 67.6 P (京都 66.6 P, 全国 70.5 P) -5.3 P
- ・「学校の規則を守っていますか」; (1&2) 90.8 P (京都 74.9 P, 全国 75.1 P) +14.6 P
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」
; (1&2) 98.4 P (京都 94.7 P, 全国 95.1 P) +1.4 P

自己評価

分析（成果と課題）

①学校評価アンケートより

- ・指標とした5つの項目について、いずれの項目も 90 Pを超える高い水準をキープしている。特に、「自分を大切にしている」「仲間の良いところを見つけようとしている」「学校の約束事

や決まりを守っている」については、昨年より3P以上増加した。これまでの指導が活きていくと感じる反面、頭では分かっていても、行動が伴わないことから生じるトラブルもあり、今後も地道な指導の継続が必要と考える。

・「自分を大切にしている」「人を大切にしている」の指標についても、大枝三訓として掲げている『共生連携』『協働琢磨』の実現に向けて着実に進んでいると考える。

・「学校の約束事や決まりを守っている」98.2Pをみても生徒の学校生活が安定していることを示している。

②全国学力学習状況調査でのアンケートより

・「学校の規則を守っていますか」については、前年度から14P以上増加した。規範意識について高い水準を示していることについては喜ばしいことである。しかしながら、現実の生活を見ていると、決して昨年より意識が向上しているとは思えない。むしろ低下しているような言動や事象が多々起こっている。数字を鵜呑みにすることなく、現状をしっかりと捉えて、危機感を持って、生徒の指導に当たって行くようにしたい。

・「自分にはよいところがあると思いますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の回答は全国平均を上回る高い結果が出ている。しかしながら、自己肯定感の向上や自尊意識の育成など課題はまだまだ多く、取組を進めていきたい。

・「将来の夢や目標を持っていますか」については、昨年度より5P以上の低下が見られる。特に「当てはまる」と答えた生徒は35.1Pと全国や京都府平均に遠く及ばない。キャリア教育の推進に一層力を入れて取り組んでいきたい。

③運営委員会と中心とする各部会（主に生徒指導部）より

・学校祭（合唱祭・文化祭・体育祭）後の生徒アンケートや教職員の総括の分析から、生徒会活動を中心とした、生徒が主体となる活動の活性化に手応えを感じているものが多く見られた。学校行事や学級での活動を軸に、不調生徒に対する継続的な支援をおこなう取組も一部では進めることができている。

④生徒の学校生活における態度や言動を観察

・アンケートや学校評価の際には、比較的正論で回答する傾向が強い。しかし、普段の生活において実践できているかというと疑問が残る。自らが当事者となった場合に、自己保身や自己弁護に走ってしまい、嘘をついたり、大きな声を上げたり、相手または学校を批判したりと冷静な判断が出来なくなるケースが親子共に少なくない。また、日々の生活についても、当たり前のことがきちんと出来るような指導を心掛け、生徒の心情を表面的に理解するのではなく、奥底に訴えかけられるような指導を心掛けていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

・「豊かな人間性」の育成を図るための取組として

①「しなやかな道徳教育」の研究を通し、公開授業の機会を活用して全校体制で取り組む。

②社会人としてのルールやマナーの習得と規範意識の育成を意識して指導する。

・自他を大切にする態度を育成するための取組として

③自己有用感を高めるための取組として、表彰活動（掲示板やHP等）を継続する。

④西総合支援学校との交流を継続し、支え合い高め合う集団づくりをさらに推進する。

⑤記名式アンケートやクラマネを積極的に活用し、教育相談等に活かしていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

・学校評価アンケート項目（「いじめを許さない仲間づくり」・「きまりを守っているか」等）

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムや全国学力学習状況調査でのアンケート結果の分析 ・運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）での報告と分析 ・生徒の観察（学校生活における態度や言動等）
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」の項目について他学年と比べて、2年生に否定的な答えが多いようと思ふが、その理由や原因についてどのように捉えているのか。年齢的な特性や個々の課題なども影響していると思うが、一人一人の生徒をしっかり見ていてもらいたい。 ・現1年生は、肯定的意見が殆どである。普段の活動を見ていると、あいさつが上手で、相手に対する気遣いができるなどおとなしく、大人っぽいといった印象がある。逆に、大人に対する顔と子どもだけでの顔のギャップを感じことがある。心を育てる教育を心掛けて欲しい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>①学校評価アンケート項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめを許さない仲間づくりができている」91.0P（前年度同時期 95.5P） 前期比-3.6P ・「自分を大切にしている」；90.0P（前年度同時期 88.4P） 前期比-0.5P ・「人を大切にしている」；97.4P（前年度同時期 97.7P） 前期比+1.0P ・「仲間の良いところを見つけようとしている」；91.3P（前年度同時期 89.0P） 前期比-1.4P ・「学校の約束事や決まりを守っている」95.5P（前年度同時期 93.0P） 前期比-2.7P <p>②学習プログラムでのアンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の規則を守っていますか」；1年生(1&2)99.3P(京都 95.7P) +3.6P 2年生(1&2)94.3P(京都 95.2P) -0.9P 3年生(1&2)96.2P(京都 95.8P) +0.4P ・「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」；1年生(1&2)95.2P(京都 94.1P) +1.1P 2年生(1&2)91.4P(京都 93.5P) -2.1P 3年生(1&2)93.6P(京都 94.9P) -1.3P <p>③運営委員会を中心とする各部会（主に生徒指導部）での報告と分析及び生徒の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、週1回の生徒指導委員会の中で、不登校対策やいじめ対策の議案をあげて取り組むことができた。その内容をプリントにまとめて、全教職員に配布するなど共通理解に努めてきたことが成果として挙げられる。 ・不登校生徒もまだまだ数多く、いじめアンケートでも毎回同じ生徒から訴えが挙がっている現状がある。それぞれのケースをしっかり検討しながら、個別により丁寧な対応をしていきたい。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>①学校評価アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標とした5つの項目について、いずれの項目も90Pを超える高い水準をキープしている。特に、「自分を大切にしている」「仲間の良いところを見つけようとしている」「学校の約束事や決まりを守っている」については、昨年より上昇した。前期と比べるとマイナスの項目が多いのは、自分や周りもしっかり見ることができるようになってきたことと評価することもできると考える。より高いレベルを目指し、頭では分かっていても、行動が伴わないことから生じるトラブルの解消など、今後も地道な指導の継続が必要と考える。 ・大枝三訓として掲げている『共生連携』『協働琢磨』の実現に向けて着実に進んでいると考える。生徒の学校生活が安定していることの一つの表れであるととらえている。この現状に満足することなく、現在の取組を継承しながら、より生徒が主体的に関わるよう生徒会を中心

	<p>とした取組へと改善していきたい。</p> <p>②学習プログラムでのアンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校の規則を守っていますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目について、全体的には、95Pを超えるなど高い数値を示しているが、学年別にみると、いずれも2年生が大きく低下している。学校評価アンケートでも挨拶やベル席、規則正しい生活など同様の傾向が見られる。2年生ができていないととらえるだけでなく、批判的な視点で自らを見ている傾向がある側面も見てやりたい。お互いのいいところを探したり、できていることは十分に評価したりして、自己有用感の向上に努めていく必要がある。また、最高学年として主体的に学校を引っ張り、自分たちの力で行事を成功に導いたりすることで自信をつけ、自分の進路の展望をしっかりと持てるような取組を進めることが必要だと考える。
学校 関係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>①生徒会活動を中心とした「朝の挨拶運動」や「生活点検活動」など、生徒が主体となる活動をより計画的に全校体制で取り組めるようにしたい。生徒会本部を中心とした計画的な取組を通して、互いが「つながる」ことの大切さを知り、切磋琢磨し、高め合う集団づくりを目指す。</p> <p>②不登校など不調を訴える生徒の増加が特に懸念される問題である。学校行事や学級での活動などあらゆる機会を捉えて、全教職員の共通理解のもと、一人一人を徹底的に大切にする取組を継続的に進める。関係機関や外部支援団体との連携も視野に入れておく。</p> <p>③道徳主任・道徳推進教師を中心として指導内容を系統的に整理し、教科書の活用や独自教材の開発など他教科との横断的連携などの研究をさらにすすめる。また、今年度推し進めてきた評価方法などを再点検し、より充実した道徳教育のスタイルを作っていく。</p> <p>④職場体験学習、ボランティア活動、部活動などの体験的な活動や西総合支援学校との交流の継続を通して、良好な人間関係を築ける力を身に付けさせる。その中で、社会人としてのルールやマナーの習得と規範意識の育成を意識して指導する。</p> <p>⑤自己有用感を高めるための取組として、いいとこ見つけを推奨し、表彰活動（掲示板やHP等）を継続する。</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や他人を大事にしているの項目やいじめや仲間についての項目が90Pを超えてきていることに大変の生徒が穏やかに学校生活を送っている様子がうかがえる。 ・配布プリントが届いているかの項目について、保護者は71.1Pが良好な回答をしているのに対し、生徒は79.5Pが良好であると回答している。逆に28.9Pの保護者がそう思わない、あまりそう思わないと回答しているが、生徒は、20.6Pにとどまっている。約1割の親子間の差が出ているのはなぜなのだろうか。配布プリントのとらえ方の違いもあるが、家庭における子供への働きかけによって大きな差が出ているのではないか。その働きかけの工夫が必要と思われる。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

基本的な生活習慣の確立、スポーツや部活動を通して社会規範や健康な心身を培う。

具体的な取組

- ①校外の様々な人的資源や機会を有効に活用し、学年毎にケータイ教室・非行防止教室・薬物乱用防止教室などの啓発事業を効果的に設定することで、自己判断力や危険回避能力を高めると共に保健指導や健康教育指導を充実させる。
- ②京都市部活動ガイドラインを遵守しつつ、体力の増進と健康維持を図るために部活動を活性化する。
- ③朝の健康観察や自己チェックシートを活用し、基本的生活習慣に関する自己健康管理能力を養う。
- ④登下校時（自転車登校等）や日常の生活実態を十分に把握し、安全指導の徹底を図る。
- ⑤保健だよりや食教育だよりなどを活用して、食教育指導の充実を図る。

（取組結果を検証する）各種指標

- ①学校評価アンケート項目（生徒・教職員）

「規則正しい生活ができているか」「時間通りに登校でき、ベル着を守るなど時間を大切にしている」
②各種体力調査結果の分析（「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」、「新体力テスト」等）
③生徒の学校生活における状況を保健室と連携して観察

中間評価

各種指標結果

- ①学校評価アンケート項目

「規則正しい生活ができている」（生徒）76.0P（前年同時期 74.0P）

「ベル着を守るなど時間を大切にしている」（生徒）94.1P（前年同時期 92.8P）

「運動、体力調査を活用し、生涯スポーツ・体力の向上の活動を推進している」（教職員）

；1_そう思う 16.8P, 2_大体そう思う 83.2P(前年度同時期 35.3P・64.7P)

「心身の成長や健康の保持増進のため食教育を進めている」（教職員）

；1_そう思う 24.0P, 2_大体そう思う 60.0P(前年度同時期 23.5P・58.8P)

- ②京都市新体力テスト調査結果の分析

・握力（筋力）；男女とも全学年で京都市平均を大きく下回った。1・2年女子の数値が低い。

・上体起こし（筋力・筋持久力）；男女とも全学年で京都市平均を上回った。1年男女の数値が高い。

・長座体前屈（柔軟性）；男女ともほぼ京都市平均と同じである。1年男女、2年女子の数値が低い。

・反復横跳び（敏捷性）；男女とも全学年で京都市平均を上回った。1年男女、2年男子の数値が高い。

・20m シャトルラン（全身持久力）；男女とも全学年で京都市平均を大きく上回った。

・50m 走（スピード）；男女とも全学年で京都市平均を上回った。1年男女、3年男女の数値が高い。

・立ち幅とび（筋パワー）；男女とも全学年で京都市平均を上回った。1年女子2年男子の数値が高い。

・ハンドボール投げ（巧緻性・筋パワー）；2, 3年は男女とも京都市平均を上回った。1年は男女共京都市平均を下回った。2年女子、3年男子の数値が高く、1年男子の数値が低い。

・合計T得点；1年男子 55.0, 女子 55.0, 2年男子 54.2, 女子 50.3, 3年男子 53.6, 女子 52.9

自己評

分析（成果と課題）

- ①学校評価アンケートより

・「規則正しい生活ができている」が 76.0P で、昨年より 2P 上昇したが、4 年前よりは 5P の減

評価	<p>少である。数年間の傾向を見ていると下降傾向であると考えられる。生徒は「早寝・早起き・朝ご飯」といわれる習慣をベースに規則正しい生活を捉えていると考えられるが、寝る時間や起きる時間が不規則なことや朝ご飯を食べない時もあることなどから、出来ていないとられていると考える。最近の傾向として学年が上がるに連れて出来ている割合が減少していたのだが、今年の2年生は、昨年と同様に「よくできている」の回答が全学年で一番低くなっている。その点の改善も充分に出来ていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ベル着を守るなど時間を大切にしている」94.1Pと前年より1.3P増加している。意識としてはとても高く、決して時間にルーズなわけではない。全項目とも関連するのであるが、ゲームやラインなど無駄に時間を費やしていることも考えられる。 ・教職員アンケートでは、体力調査の活用や食教育については、肯定的に捉える意見が多い反面、不十分さを指摘する意見もあり、課題があると感じられる。 <p>②京都市新体力テスト調査結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合計点では男女とも全学年で京都市平均を上回っている。特に、1年男女の数値が高い。ただし、握力については男女とも全学年で低い数値であった。 ・学年別では、1年は男女とも、握力、長座体前屈、ハンドボール投げの数値が低く、2年男子は、握力、長座体前屈、50m走の数値が、3年男子は握力、反復横とび、立ち幅とびの数値が低い。3年女子は握力以外の数値は高くなっている反面、2年女子は全体的に低調であった <p>③保健室と連携して観察した結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では、大枝小学校の生徒に対して自転車通学を認めているが、例年、自転車運転時のケガや事故、さらには地域住民の方々への迷惑行為がみられる。急な坂道が多い地理的条件もあり、年度当初には自転車運転学習会や外部から講師をお招きしての研修会を実施している。しかし、地域からの苦情もまだまだ多く課題があると思われる。 ・今年度はけがが多くなっている。ねんざや骨折などの重大なけがが、体育の授業中や部活動、塾の行き帰りなど校内外にかかわらず多発傾向にある。生徒の成長過程で、当然身についていくはずのバランス感覚や危険予知力の低下が関わっているのではないかと考えている。
分析を踏まえた取組の改善	<p>①朝の健康観察や自己チェックシートをさらに活用し、基本的生活習慣に関する自己健康管理能力を養う。また、委員会活動等を利用した啓発活動を行う。</p> <p>②登下校時（自転車登校等）や日常の生活実態を地域の方々のご支援を受けながら、現状の把握に努め、さらに安全指導の徹底を図る。</p>
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート項目（「規則正しい生活ができているか」・「時間を大切にしているか」等） ・各種体力調査結果の分析（「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」、「新体力テスト」等） ・生徒の学校生活における状況を保健室と連携して観察
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストで「握力」の結果が全学年低いようだ。原因は何かあるのだろうか。小学生を見ても、雑巾がしほれない子、裁縫での玉結びや鉄棒の逆上がりが出来ない子がたくさんいる。中学生でも、柔道着の帯が結べなかったり、藍染めの時、輪ゴムで布をしほることが出来なかったりする生徒もたくさんいる。保育園からそのような活動を積極的に取り入れているが、その成果はあまり現れていないようだ。生活習慣として反復して活動することが大切ではないか。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

①学校評価アンケート項目から

「規則正しい生活ができている」 75.8P (前年度同時期 76.9P) 前期比-0.2P

「時間通りに登校でき、ベル着を守るなど時間を大切にしている」

94.5P (前年度同時期 90.1P) 前期比+0.4P

②「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」(全国平均との比較)より

男子；身長 161.3cm(+1.3), 体重 47.5kg(-1.3), 軽度肥満 2.5P(-1.7), やせ 7.4P(+4.8)

女子；身長 154.6cm(-0.3), 体重 44.4kg(-2.4), 軽度肥満 2.1P(-1.9), やせ 8.5P(+4.9)

「運動が好き」；(1&2)男子 89.1P(89.4P), 女子 81.8P(79.2P)

「運動は大切」；(1&2)男子 90.4P(93.4P), 女子 85.5P(89.9P)

「部活動やスポーツクラブの所属」；(無所属) 男子 4.8P(7.3P), 女子 1.8P(8.3P)

「朝食を食べる」；(1 毎日)男子 83.3P(81.6P), 女子 78.2P(78.2P)

「1日の睡眠時間」；(6 時間未満)男子 3.6P(7.9P), 女子 1.8P(9.6P)

③生徒の学校生活における状況を保健室と連携して観察

- ・自転車による事故は通学手段にかかわらず、増加している。塾の行き帰りや、買い物途中など放課後の時間帯にも頻繁に発生している。今年は特に、登下校時の転倒によるけがが多く発生した。不注意によるものがほとんどであり、全校集会等で何度も注意を呼び掛けた。
- ・朝から体調不良を訴えて、保健室に来室する生徒も多く、固定化する傾向がある。また、体育の授業や部活動の怪我も多く、本来なら簡単に避けられるようなものも重症化する傾向がある。

自己評価

分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題

①学校評価アンケートより

- ・「規則正しい生活ができている」が 75.8P と前年同期より 1.1P, 前期より 0.2P 減少した。「早寝・早起き・朝ご飯」のうち、朝食については、ほぼ 8 割の生徒が毎日食べると回答している。「時間通りに登校でき、ベル着を守るなど時間を大切にしている」の項目が 94.5P で昨年同時期より 4.4P 上昇し、前期より 0.4P 上昇した。これから早起き・ベル着などのルールもしっかりと守れている現状がうかがえる。従って、SNS 等の利用によって「早寝」ができていない現状がみえてくるので、そこに大きな課題あると考える。

②「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」より全国平均と比較して

- ・男子は、身長は少し高めで、体重は 1.3kg 軽い。肥満傾向が少なく、やせ傾向が多い。女子は、身長はほぼ平均だが、体重は 2.4kg 軽い。肥満傾向が少なく、やせ傾向が多い。男女共にやせは 5P 程多くなっている。
- ・運動が「好き」と回答した生徒は、男女ともにほぼ全校平均だが、「大切」と回答した生徒は全国平均から 5P 下回っている。また、部活動やスポーツクラブの無所属の割合は、全国平均を大きく下回り、女子については 98.2P の生徒が何らかの活動に参加していることが大きな特徴となっている。

- ・生活面では、朝食を毎日食べると回答した生徒は、男子 83.3P, 女子 78.2P と全国平均を上回っている。また、1日の睡眠時間が 6 時間未満の生徒も、男子 3.6P, 女子 1.8P で、全国平均を大きく下回っている。特に女子については、98.2P が 6 時間以上の睡眠時間をとつておらず、学校評価アンケートから見るよりもはるかに規則正しい生活を送っていると考えられる。

	<p>③保健室と連携して観察した結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年、自転車通学を認めている生徒対象に自転車安全教室を開いてきたが、今年度、通学時以外での自転車によるけがが多発したことを踏まえ、全校実施したい。さらに、今年度もねんざや骨折などの重大なけがが、体育の授業中や部活動、塾の行き帰りなど校内外にかかわらず多発していることを考慮し、生徒の成長過程で、当然身についていくはずのバランス感覚や危険予知力の低下が関わっている可能性も含めて取組を進めていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ol style="list-style-type: none"> 朝の健康観察や自己チェックシートをさらに活用し、基本的生活習慣に関する自己健康管理能力を養う。特に「早寝・早起き・朝ご飯」の取組を全校体制で進めていく。 登下校時（自転車登校等）や日常の生活での交通安全指導を徹底し、自転車安全教室も全校生徒を対象としたものにしていく。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> SNS等でのトラブルが多発していると聞いている。学校としてどのような指導を行っているのか。また、トラブルが発生した時、どのような指導をしているのか。基本的には、家庭での問題ではないのか。家庭の協力は得られないのか。 自転車については、かなり危険な場面に遭遇することもある。学校の立地条件から、下校時にはかなりのスピードがでてしまう。地域としても注意喚起を行っていきたい。

（4）学校独自の取組

<p>重点目標</p>	<p>9年間を通しての「自らすすんで学び、自分も友達も大切にする子ども」の育成</p>
<p>具体的な取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 大枝ブロック小中「<u>学びのガイドライン</u>」の徹底と継続的な見直しを行う。 小中連携事業の拡充（部活見学会の実施・入学者説明会での生徒活動など）を行う。 夏季合同研修会の内容を充実する（今年度は道徳教育に焦点を当てる）。 「<u>しなやかな道徳</u>」の研究指定を活用し、義務教育9年間を見通した題材の配置や評価の実践を進めると共に、合同研修会、公開授業を通して、その内容の見直しを行う。 3年間継続して取り組んできたポスターセッション形式の発表を見直し、より効果的で、安全面に配慮できる取組を新たに模索する。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 大枝ブロック各校における教職員のアンケート 大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での報告と分析

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>①大枝ブロック夏季合同研修会より</p> <p>○ 8月21日(水)に桂坂小学校クローバーホール他で実施。</p> <p>「生徒指導から見る大枝中学校の現状」「研究を通して子どもたちにどんな力をつけようとしているのか」を全体会及びパネルディスカッションにて研究討議</p> <p>また、「しなやかな道徳」研究(公開)授業指導案を15グループに分かれて検討</p> <p>○ 「しなやかな道徳」研究授業と研究協議および公開授業</p> <p>・桂坂小学校9月18日(水)・大枝小学校10月30日(水)・大枝中学校10月18日(金) →反省とその集約については、各部会においてこれから分析、検討します。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>①大枝ブロック夏季合同研修会での教職員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホやSNSにまつわるトラブルや問題が入学早々に発生している現状を知り、小学校での指導の必要性や小中の連携の重要性を強く感じた。 ・9年間で育てたい資質、能力を「人間関係力、コミュニケーション力、つながる力」として取り組んできた。言葉は違うがそれぞれの学校が同じ方向を向いて取り組んでいる様子がよくわかった。 ・「しなやかな道徳」の研究(公開)授業に向けて、中心発問の効果的な問い合わせ方やグループ討議などの話し合いの形態について検討する機会が持てて良かった。小中の考え方ややり方に差もあるが、お互いの良いところを取り入れてさらに検討を進めていきたい。 <p>②大枝ブロック合同部会(校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会)での分析より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、しなやかな道徳での研究討議やアンケートを基に、研究主任会や教務主任会で分析し、さらに、校長会で『9年間で子どもたちに付けたい資質や能力』として具現化に向けた取組を検討していきたい。それらを学校教育目標に共通するものとして取り込んでいければ良いと考えている。 ・これまで取り組んできた小中「学びのガイドライン」の点検や見直しを通して、大枝ブロックにおける「学びの継続性」を推進するための枠組み(システムづくり)が重要であることを再確認することもできた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>①大枝ブロック3校での「しなやかな道徳」研究(公開)授業を相互に参観することで、9年間を見通した学びの連続性をさらに進めていく。</p> <p>②小中の管理職、教務主任、研究主任、生徒指導担当者が中心となり、「育てたい資質、能力」や「共通の課題に対する改善の方向性」を明確にするために、定期的な情報交換の場を設ける。</p>
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大枝ブロック各校における学校評価教職員アンケート ・大枝ブロック合同部会(校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会)での報告と分析 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳に力を入れている学校が増えているが、「道徳」という名称については以前の「修身」のようなイメージがどうしてもつきまとう、また、評価はそぐわないのではないか。 ・「○○はしてはいけません」といった一方的な教え込みではなく、話し合いやコミュニケーションといった活動を中心に、友達の気持ちを理解したり、知らなかつた一面に気がついたりす

	ることで授業がされていることがわかった。また、評価も1～5の数字による評定ではなく、一人一人の生徒の特に印象に残った活動などを文章で表記することで納得できた。
--	---

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>①大枝ブロック各校における学校評価教職員アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の連携については、教職員は概ね良好な評価をしている。ただ、「学びのガイドライン」については、作成後3年がたち、実態にそぐわない面やさらに推進していかねばならない面も出てきている。 <p>②大枝ブロック合同部会（校長会・教務部会・研究部会・生徒指導部会）での報告と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫の取組として、今年も体験授業、部活動見学、生徒会交流などを行った。それぞれに意義のある取組であると思うが、子どもたちの安全面やカリキュラムとしての位置付けなど新たに問題が出てきている。特に安全面についての課題が大きかったので、ポスターセッションは取りやめた。これに代わるものとして、具体的な取組の検討を要する。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>①小中「学びのガイドライン」の徹底と継続的な見直しについては、概ね出来ているが、次年度もより現状に沿った形に変更する必要を感じている。具体的には「めあて」と「振り返り」だけでなく、「授業の流れ」を明示するなど、ユニバーサルデザインの視点を持って、一人一人の生徒を大切にするためにより実効性のある取組を進めていきたい。特に、ガイドラインについて、全教職員が共通理解し、再確認することで重要となってくる。</p> <p>②小中連携事業については、安全で効果的な取組を実践したい。小中学校相互に訪問することで途中の安全面での課題が出てきたが、必要な取組は継続し、ポスターセッションに代わる取組を模索していきたい。テレビ会議システムなどを活用できないか検討中である。</p> <p>③夏季合同研修会の内容について、今年度はテーマを『道徳』とし、特に評価についての研究を中心に小学校と中学校で一貫性のあるものにする研修を行った。次年度も、今年1年の実践から、それぞれの学校で検証を行い、夏季合同研修でより具体的な報告ができるようにしたい。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びのガイドライン」の見直しと小中における共通理解の上に立った実践を行う。 ・体験授業や部活動見学、生徒会交流など移動する回数を少なくし、安全面や効率の面でも改善された小中合同行事の実施。 ・今年度の「しなやかな道徳」と研究指定を振り返り、特に評価の方法について、小中ブロックとして、道徳主任会（道徳推進教師）、研究主任会、教務主任会、校長会それぞれが相互に連携をとりながら、実践していく。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大枝中、大枝小、桂坂小で小中一貫や小々連携をさらに進めていって欲しい。将来を見据えて、より活発な地域、社会を作り上げるような児童、生徒に育って欲しい。そのためにどのような協力が出来るのか、学校運営協議会のあり方も含めて今後検討していきたい。 ・小中3つの学校運営協議会の連携を図るために、今年度は大枝中の第1回学校運営協議会の案内を配布した。実際に参加はなかったが、今後も継続していきたい。

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標

教職員一人一人が勤務時間を意識し、子どもと向き合う時間を十分に確保する。

具体的な取組

- ・学校行事を精選すると共に、負担が一時期に重なることや特定の者にかかることのないようにする。
- ・会議を精選、効率化する。議案の事前配布や運営委員会での徹底した審議を心掛ける。
- ・電話応対時間を午後7時までとし、以降は留守番電話に切り替える。
- ・働き方改革に関する研修を行い、自らのことと捕らえることが出来るようとする。

(取組結果を検証する) 各種指標

①教職員の勤務時間

- ・超過勤務月45時間年間350時間を目標とし、月途中での点検を行い、周知徹底する。

②年休取得率

- ・年休の取得率の向上を目指す。

中間評価

各種指標結果

①時間外勤務チェックシート（調査対象32名・4～9月）の分析

- ・80時間超；のべ5名、100時間以上；0名
- ・全平均；52時間59分→50時間13分→48時間35分→44時間20分→18時間26分→52時間19分
- ・平均月45時間以下；10名（達成率31.3P）、半年間計175時間以下；7名（達成率21.9P）

自己評価

分析（成果と課題）

①時間外勤務チェックシートより

- ・全体的に時間外勤務削減に対する意識が定着してきた。80時間を超えた者も学校行事の準備や部活動の公式戦で一時的に超えたもので、2ヶ月連続して超えた者はいない。平均すると約50時間にとどまっており、ノーカー残業デーの定着や管理職からの声掛けの効果を現しているものと考える。
- ・一方、目標としている月45時間以下については、まだ6割以上のものが達成できていない現状である。年間350時間については、夏期休業があったにもかかわらず、約8割が半分の175時間を超えており、達成には困難が予想される。

分析を踏まえた取組の改善

- ・学校行事の精選及び校務の負担が一時期に重なることや特定の者にかかるないようにする。
- ・会議を精選、効率化する。議案の事前配布や運営委員会での徹底した審議を行う。
- ・電話応対時間を午後7時までとし、以降は留守番電話に切り替える。
- ・働き方改革に関する研修を行い、自らのことと捉える。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

①教職員の勤務時間

- ・超過勤務月45時間年間350時間を目標とし、月途中での点検を行い、周知徹底する。

②年休取得率

- ・年休の取得率の向上を目指す。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象の「将来なりたい職業のアンケート」で、これまで女の子の上位に入っていた「学校の先生」が最近は見られなくなっているのではないか。これからは、新しい職業がたくさん出てくると言われているが、教師という職業は決してなくならないと思う。是非魅力的なものにしていって欲しい。

最終評価

自己 評 価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<p>① 時間外勤務チェックシート（調査対象 31 名・10 ~ 2 月）の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80 時間超；のべ 3 名、100 時間以上；0 名 ・全平均；51 時間 57 分 → 47 時間 6 分 → 40 時間 26 分 → 40 時間 16 分 → 39 時間 30 分 ・月平均 45 時間以下；10 名（達成率 32.3 P） 月平均 30 時間以下（年間 350 時間以下）；6 名（達成率 19.4 P）
分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題	<p>① 時間外勤務チェックシートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に時間外勤務削減に対する意識が定着してきた。80 時間を超えた者も学校行事の準備や部活動の公式戦で一時的に超えたもので、2ヶ月連続して超えた者はいない。平均も明らかに減少傾向にあり、2 月は 40 時間を切っている。年間を通してみると、4 月と 5 月、9 月と 10 月に 50 時間を超えるが、これ以外の月にどのようにして超過勤務を減らすかが課題と考える。ノーリラーニングの定着や管理職からの声掛けの励行が効果を現しているのではないか。 ・一方、目標としている月 45 時間以下については、7 割近くが達成できていない現状である。年間 350 時間については、さらに達成が困難と思われ、今後出される働き方改革の方針に則って、教職員に対する意識付けが大きな課題になると考えている。 <p>② 年休取得率については、その向上を目指し、取得可能な時期や時間を見ながら、声掛けをするなど、より実効性のある方法を検討していきたい。</p>
分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の精選及び校務の負担が一時期に重なることや特定の者にかかるないようにする。 ・会議を精選、効率化する。議案の事前配布や運営委員会での徹底した審議を行う。 ・電話応対時間を午後 7 時までとし、以降は留守番電話に切り替える。 ・働き方改革に関する研修を行い、部活動を含めて、月 45 時間、年間 360 時間の上限を順守できる方策を自らのこととして考え、実行できるようにする。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・7 時以降留守番電話にして、支障はないのか。保護者からの要望はないのか。 ⇒ 特に支障はない。緊急時や電話連絡の必要な場合については、対応している。 ・部活動ガイドラインは守られているのか。生徒や保護者からの不満はないのか。 ⇒ こちらでつかんでいる範囲では、守られている。ご理解いただき、協力をお願いしている。